

水 抜 穴	掘込式以外は原則設置しないこと。設置する場合は $L \cdot W \cdot L + 0.5\text{m}$ とし逆流防止弁をつけること。
維持管理施設	幅 2 m 以上の管理用道路を設置。調整池内にスロープでアクセス出来る構造を標準とする。
オ リ フ ィ ス	最小断面は 100 c m^2 ($10\text{ c m} \times 10\text{ c m}$) 以上を標準とする。
	前面にスクリーンを設置。スクリーンは多面体とし、大きさはオリフィス面積の 20 倍を標準とする。
	スクリーンのメッシュ面積は、オリフィス面積の $1/4$ (縦 $1/2$ 横 $1/2$) の大きさを標準とする。
	オリフィスはステンレス製とし、コンクリートとの接続部分はコーキング等漏水防止措置を行う。
放 流 管	放流管の管径は、計画放流量に対して自由水面を有する流れとなるよう配慮し、その流水断面面積は管路断面面積の $3/4$ 以下として設定することを原則とし、次式により求めるものとする。 $D = \left(\frac{n \cdot Q}{0.262 \cdot I^{1/2}} \right)^{3/8}$ ここに、 D : 管径 (m) I : 管路勾配 n : 粗度係数 Q : 計画放流量 (m^3/s) 最小管径は、管長 50m まで $\phi 600$ 、50m 以上は $\phi 1000$ を原則とする。
	構造は、ヒューム管等堅固なものとし、原則としてコンクリートで 360° 巻立てとする。
エアーベント (給 気 管)	必要に応じて (通常はフィルダムの場合)、放流管の入口及び出口に設置。管径 100 mm を標準とする。
流 量 係 数	オリフィス計算 $C = 0.6$ 越流頂 (洪水吐) 計算 $C = 1.8$
そ の 他	調整池流入部には、洗掘防止のための護床工 (フトン籠等) を設置すること。 水路等との接続部は、管理者と協議の上、護床工、減勢工、法面保護工等を施工すること。

b 調整池と貯留・浸透施設の併用について

宅地開発に伴い必要となる雨水の流出抑制対策は、従来から調整池が一般的に設置されてきたが、次の条件が満たされていれば、調整池の洪水調節容量は、貯留・浸透施設の流出抑制効果を見込んで計画することができるものとする。

調整池と貯留・浸透施設の併用の適用条件

- ① 設置可能区域は、原則として浸透施設の設置可能区域であること。
- ② 設置場所は、原則として施設の機能の継続性と良好な維持管理が期待できる公共公益施設用地等であること。(公園、緑地、広場、駐車場等)
- ③ 必要に応じて除塵対策を講じること。